

# 当別断酒会 6代目会長 工藤 光雄さん



第20回西部地区野外研修会 (於)当別道民の森一番川地区 H25.6.9  
平成 25 年 6 月 9 日 道民の森での野外研修会  
焼肉などで楽しいひと時を過ごしました。



## 家族の愛情に支えられて

**近年**、問題となっている依存率が高い携帯やインターネット依存症、そしてギャンブル…アルコール依存症。当別でも実際にアルコール依存症を克服しようと活動している「当別断酒会」があります。今回は、6代目会長を務める工藤光雄さんからお話を伺いました。

**一般**の方には「断酒会」について馴染みが無いというか、ほとんど知らない方が多いと思います。断酒とはその言葉のとおり酒を断つことであり、そこに至るまで様々な過程があり、本人や家庭での問題が複雑に絡み合っています。実際、私自身も酒に溺れ、家族に迷惑をかけてきた1人です。当時、大工として働いていた時にアルコール依存症になり、毎日のように朝から酒を飲んで荒れた生活を送り、幻覚を見たこともありました。専門病院にも6回、入退院を繰り返していた当時、当別にも保健所があって相談していた保健師さんの勧めもあり、平成2年に当別断

酒会に入会しました。毎月、第1、第3月曜日に例会が行われており、必ず出席していました。ところが病院に入院していた、ある冬の猛吹雪の日…どうしても例会に行くことが出来ず断念していたんです。その後、出席者の人数確認をして、どうしても1人合わない。誰だろうと思って保健師さんに聞いたら、実は妻が参加していたのです。吹雪の中を歩き、全身が雪で真っ白になりながら…その話を聞かされ涙が止まりませんでした。「もう絶対に飲まない」固く心に誓いました。これまで苦勞をかけてきた妻や子ども達に二度と辛い思いはさせないと…。その日から酒を一切飲んでいません。

**自分**勝手な行動でたくさん人の苦しみと苦勞をかけた償いと最後まで支えてくれた家族や保健師さん、病院の先生に、この恩をかえしたいと思い、現在専門病院で依存症の方のサポートをしています。大切なことは、相手を信じてあげること、決して押し付けないこと。アル

コールに限らず、依存症というのは、意識していなくてもその衝動を抑えきれず行動してしまい、自覚症状に気づきにくいものです。そこから脱却するためには本人の立ち直ろうとする意志も必要ですが、家族や周囲のサポートも大切です。偏見の目で見られたり、差別的な発言をされる方もいますが、些細なきっかけでアルコール依存症になる方も実際に大勢います。特に定年退職を迎えた方が依存症になりやすい傾向にあります。断酒会では、経験談を語り合い、自らの過ちを反省すると共に互いを励まし、心身の健康回復に向け一歩ずつ前進していくため活動を続けています。少しでも酒に関して気になることがあれば、いつでも相談して下さい。9月には当別町にて全道の断酒会が集まる北海道ブロック大会があります。会場で話を少しでも聞いてくれると私達の活動を理解していただけたらと思います。

(7月16日取材)  
断酒会の記事は14ページに掲載しています。